

AAA

入学検査問題

国

語

聖学院中学校

※問題用紙 8枚
※解答用紙 1枚

座席番号		検査番号		名前	
------	--	------	--	----	--

(注意) 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

□ 次の各問に答えなさい。

問一 ― 線部分の漢字の読みを答えなさい。

- 1 練り上げた戦略が奏功し、試合に大勝した。
- 2 すでに晩夏だというのに、とても暑い日が続く。
- 3 先生の引率で目的地に向かう。
- 4 努力しなければ、才能があっても未完の大器に終わる。
- 5 蚕のはく糸をつむぐ。
- 6 図らずも収入が増え、生活が楽になった。
- 7 費やした長い年月を思い出し感動の涙を流す。
- 8 推すべき人がいない今回の市長選挙。
- 9 命令に背くことはゆるされない。
- 10 志半ばであきらめざるをえなかったので、実にくやしい。

問二 ― 線部分のカタカナを漢字にしなさい。

- 1 キロク的な猛暑が続いたロシア。
- 2 円高でユシュツが減る。
- 3 さくらんぼがよくジュクしている。
- 4 キチヨウな生物資源を守る国際会議。
- 5 コンサートのカイエン時間が近づく。
- 6 次代をニナうのは君たちだ。
- 7 幼いうちに豊かな感性をハグクむ。
- 8 雑貨店をイトナむ祖父。
- 9 アヤマちはすぐに改めることを心がけよう。
- 10 ヨソオいも新たに開店いたします。

② 次の文章を読み、後の問に答えなさい。(、 や 。 などとも一字とします)

台所にはパパとママがいた。ママはワンの背中を優しくさすって、パパは、そんなママの肩にそっと手を置いていた。

「ねえ、パパ。会社休んだの？」

「ああ……ワンが天国に旅立つところ、ちゃんと見送ってやらないと……ワンって、ほら、寂しがり屋の甘えん坊だったからな」

① メガネの奥のパパの目は、もう真っ赤になっている。

「ツヨシも背中をさすってあげて。ワン、がんばっているんだから」

ママの声も、涙交じりだった。

② ぼくは黙ってしゃがみこみ、ワンの背中をなでた。昔はフサフサしていた白い毛も、いまはだいぶ抜け落ちてしまった。散歩をすると鎖をぐいぐい引っ張っていたたくましい体も、もう、すっかりやせ細って、ひとまわりもふたまわりも縮んでしまったみたいだ。

ワン――。

ぼくのアルバムには、ワンと一緒に写った写真がたくさんある。赤ちゃんのぼくがワンの顔を見て泣いている写真が、いちばん古い。いちばん新しい写真は四年生に進級したときの一枚で、それが最後になってしまいうんどう。

ワン――。

犬なのに寒がりで、雪が降ると小屋の中からちっとも出てこなかった。おみそ汁をかけたごはんが好きだった。『当たり前』でぼくがお菓子を買ったリクジをひいたりしている間、ガードレールにつながれたまま、おとなしく待ってくれていた。

死なないでよ、ワン。

もつと……もつと、もつと……一緒にいたいよ……。

夕方になって往診に来てくれた獣医さんは、ワンの体温を測り、聴診器で心臓の具合を確かめてから、「しばらく、ここにいます」と言った。それはつまり、ワンが③ 瞬間がすぐ目の前まで迫っているということだった。

お別れだ。

「じゃあ、明日な」とは言えない、永遠のお別れ――ぼくにとっては生まれて初めての体験になる。

パパは吸い飲みの水を、ワンに飲ませようとした。でも、ワンは舌をだらんと垂らしたままで、水は毛布にこぼれてしまった。

ママは背中をさするだけでは気がすまず、泣きながらワンの顔に頬ずりをして、

「ありがとう、いままで、ほんとうにありがとう」と繰り返し返した。

ありがとう――っていい言葉だな、と思った。いつもはフツーに使ってるお礼の言葉だけど、いまは違う。

④ もつと深い。「さよなら」で別れるよりも「ありがとう」で別れるほうが、ワンだって、きつと喜んでくれる。だって、あいつ、頭をなでて「いい子、いい子」してあげたら、いつもしっぽを力いっぱい振っていたんだから。

だから、ぼくも言った。

「ワン、ありがとう……」

背中をさすって、涙をぼろぼろ流しながら、何度も言った。

「ありがとう、ありがとう、ありがとう……」

ワンと出会えたことに、ありがとう。ぼくと遊んでくれたことに、ありがとう。我が家の一員になってくれて、ありがとう。おじいちゃんになるまで長生きしてくれて、ありがとう。そして……とにかく、ぼくと同じ、この世界にいてくれて……ありがとう……。

ワンのしっぽが小さく動いた。風が吹いて毛が揺れただけのようにかすかに、でも確かにワンはしっぽを振ってくれた。

それが、ワンからの最後の「ハ⑤」だった。

獣医さんは聴診器を耳からはずして、「ワンは元気に天国に向かって走っていったよ」とぼくに言った。

中略

次の日、ぼくは学校を休んだ。「⑥学校の勉強も大事だけど、これはもっと大事なことなんだから」と言ったパパは、自分も会社を休んだ。

ママも「今日は特別だもんね」と、連絡ノートに長い手紙を書いてくれた。

三人でワンを車に乗せて、隣の市のペット霊園（れいえん）に向かった。他のペットと一緒にお墓だったから、ママは「みんなと天国で仲良くするのよ」と泣きながらワンを係員のおじさんに渡して、それで——「さよなら」と「ありがとう」の最後の最後のお別れをした。

帰りの車の中で、パパが話しかけてきた。

「ワンが死んだの、悲しいか？」

「……うん」

「よかったな」

「え？」

「だってそうさ。ツヨシはワンのことをほんとうに大好きだったから、悲しいんだ。⑦大好きじゃなかったら悲しまずにすむけど、そっちのほうが悲しいじゃないか」

パパの言葉は、難しく、よくわからなかった。

でも、パパがつづけて言った「ツヨシがワンのことを大好きでいてくれて、うれしいよ」の一言は、すうっと胸に染み渡っていった。

「これからも、たくさん好きな相手ができるといいな、ツヨシ」

「でも……ワンは犬だけど……」

「同じだよ。とにかく、いなくなったら悲しくて泣いちゃうぐらい大好きな相手がいるってのは、幸せなことなんだよ」

パパはそれきり、もうなにも言わなかった。ぼくも黙って、窓の外をぼんやり見つめるだけだった。

やがて、ぼくは居眠り（いねむり）をした。

ワンの出てくる夢を見た。

ワンは元気いっぱいにはぐのまわりを走っていた。

⑧最後にしっぽをクルクルツと振って、遠くに駆けだして、そのまま、消えた。

（重松清『くちぶえ番長』）

問一 ― ①は、どのようなことを意味していますか。説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、ワンが苦しんでいることをかわいそうだと思っている。

イ、ワンが寂しがり屋だったことを思い出している。

ウ、ワンが死ぬかもしれないことを心配している。

エ、ワンが死にそうになっているのを悲しんでいる。

問二 ― ②について、ここでのワンに対する「ぼく」の気持ちの説明としてふさわしくないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、ワンの元気だったときのことを思い出し、今の姿に驚いている。

イ、今にも息絶えそうなワンの姿を見て、あわてふためいている。

ウ、ワンがいよいよ死んでしまうことを実感し、悲しんでいる。

エ、年老いてしまったワンの姿をかわいそうだと思ひ、あわれんでいる。

問三 (③) に入ることを文中から六字でぬきだして答えなさい。

問四 ― ④「もっと深い」とありますが、なぜ「深い」のですか。その理由としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、ワンが死んでしまう悲しみだけが純粹にこめられているから。

イ、ワンに対する最後の「さよなら」の意味がこめられているから。

ウ、ワンがすこしでも長く生きられるように励まそうという思いがこめられているから。

エ、ワンがいてくれたことへの今までの感謝がすべてこめられているから。

オ、ワンに対して自分勝手に接していたことへの謝罪の意味がこめられているから。

問五 (⑤) に入ることを文中から五字でぬき出して答えなさい。

問六 ― ⑥について、このようにパパが言った理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、バラバラな日にお別れを言うより、一度で済ましてあげたほうがワンにとっても心残りが無いだろうと思っただから。

イ、ワンは寂しがり屋の甘えん坊だったので、最後まで家族一緒に送り出してやったほうが喜ぶだろうと考えたから。

ウ、大好きなワンの死を正面から見つめさせることで、悲しみよりも命の大切さを学んで欲しいと願ったから。

エ、家族全員が大好きだったワンとの最後のお別れであり、「ぼく」にとっては初めて経験する永遠のお別れだから。

問七 ― ⑦について、「パパ」が本当に悲しいと思っていることを文中のことばを使って、三十字以内で説明しなさい。

問八 ― ⑧について、この夢を「ぼく」はどのように感じ取っていますか。その理由としてふさわしいものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア、ワンがもういちど会えてうれしいと言いに来たんだ、と思っている。

イ、ワンがお別れをするのが悲しいと言いに来たんだ、と思っている。

ウ、ワンが最後のさよならを言いに来たんだ、と思っている。

エ、ワンが良い友達を見つけるよと言いに来たんだ、と思っている。

オ、ワンが今までのありがたうを言いに来たんだ、と思っている。

③ 次の文章を読み、後の間に答えなさい。(、や。なども一字とします)

正しい日本語、美しい日本語、という言い方がある。しかし、何をもって正しいとするか、何をもって美しいとするかは、場合によっては議論を呼ぶ。一例を挙げれば、「※1鼻濁音びだくおんが発音できないアウンサーにはニュースを読ませるべきではない」と不快感をあらわにする人がいる一方で、鼻濁音でなくとも全く気にならないという人もいる。前者は主として東京出身の中高年齢層であるが、彼らにとって鼻濁音は継承けいしょうすべき正しく美しい日本語の音である。ところが、後者はそう考えていない。それどころか、なかには、「鼻濁音を聞くのはまだ我慢がまんできるが、強制的に発音させられると、①体がむずがゆくなる」とまで言う者がいる。日本人の大学生である。別の留学生はこう言った。

「『食べれる』『見れる』は文法的に正しくないというのですが、私の出身地ではだれもがそのように言っています。正しい日本語ってなんですか。東京の言葉のことですか」

私が思うには、②いま、ここで、私にとつて、正しく美しい日本語というものは存在しうるが、いま以外の時、ここ以外の場所、私以外の者に、その正しさと美しさが認知されるとは限らない。言葉だけではない。正誤や美醜びしやうの判断基準は、時空を超えて不変ではありえない。

加えて、言語コミュニケーションにおいては、そこに当事者同士の関係や、発話者の人間性などが介入かいにやうしていく。上品で教養ありげな※2佳人かじんが優雅な物腰で「とんでもございません」と言うのを聞けば、これが正しく美しい日本語だと錯覚さくかくしてしまう可能性もある。聞き手の話し手に対する好悪の感情が、発せられる言葉を美しくも汚きたなくも感じさせる。文豪ぶんこうの物した文章のなかに美しい日本語を見出す人もいれば、正確な日本語なるものを追究して、※3夜を日に継いで辞書や文法書と格闘かくとうしている人もいるだろう。

現実の口頭コミュニケーションにおける正しく美しい日本語の条件とは、相手に誤解を与えないことと、相手に不快感や不信感を与えないことに尽つきるのではないかと思う。相手に誤解を与えないためには、現代の日本人が共通理解事項としているところの日本語の文法、※4語彙ごい、※5音韻おんいんなどの体系を無視するわけにはいかない。規範きはんとかけ離れた「日本語」を勝手に作って話せば、言いたいことが相手に通じないだけでなく、相手から※6疎んじられるのがおちである。外国人学生にはこの種の失敗が無数にある。コンビニエンスストアでコピー機の所在をたずねようとした学生が、女性店員に向かって「すみません。コピーしたいんですけど、できますか」と言つて大笑いされたというのを当の学生から打ち明けられた。確かに彼は、長くのばす音や濁音と半濁音を聞き分けることが得意ではなかったが、自分自身では「コピー」と正しく発音したつもりだったのだ。コピー機を指差しながら笑い転げる若い店員を前にして、笑われる理由がわからないままに彼も一緒に笑うしかなかった。幸い、その学生はコピーをするという目的を果たして無事に帰ってくる事ができたが、日本語母語話者でも、これに類した体験を持つ者はいるのでないだろうか。

その場で大笑いされるのなら、無邪気な間違いむじやきまちがとして、それこそ笑つてすませてもいいかもしれない。ところが、「おいしいですよ。③校長先生もどうぞ教えてください」とか「マジうまいっすよ。校長先生食わないんすか」とかになると、通じるには違ちがいが、話し手の言語能力はもとより、(④)まで疑われかねない。前者は敬語の使い方を誤っており、後者は⑤語彙の選択が稚拙ちせつすぎる。校長先生はおそらくその場では笑い声を立てないだろうが、腹のなかでは不愉快ふゆかいに思うか※7嘲笑ちやうしやうしている。したがって⑥これらは、正しくない、美しくない日本語だ。相手に嫌いやがられたり馬鹿ばかにされたりするということは、結果として発話者に不利益となる。そういったことを避けるためにも、このような日本語は使わないほうがいいわけだ。

日本語の引き出しをどれだけ持っているか、そして、時と場合に応じて言葉や表現をいかに的確に選び取るこ

日本語の経験を積むことだ。たくさん聞いて、たくさん話して、たくさん読んで、たくさん書くことだ。

(野口恵子『かなり気がかりな日本語』)

- ※1 鼻濁音……鼻に抜^ぬいて発音するガ行音
- ※2 佳人……美人
- ※3 夜を日に継いで……夜も休まずに
- ※4 語彙……言葉の集まり
- ※5 音韻……記号としての音
- ※6 疎んじられる……いやがられること
- ※7 嘲笑……ばかにして笑うこと

問一 ― ①の意味としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、しつこいので腹が立つ。

イ、不自然で気分が悪くなる。

ウ、かた苦しく感じ緊張する。

エ、押しつけがましく感じる。

問二 ― ②について、筆者がこのように考えるのはなぜですか。その理由としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア、「正しい」や「美しい」の基準は、環境や時代とともに変化していくことがあるから。

イ、「正しい」や「美しい」の表現の仕方は、その人の持つ言葉によって異なるから。

ウ、「正しい」や「美しい」の印象は、それを発する人の好みによって左右されるから。

エ、「正しい」や「美しい」の考え方は、同じ人間でも時によって変化することがあるから。

問三 ― ③について、この部分を正しい敬語に直し、次の文の（Ⅰ）にひらがな六字で答えなさい。

「校長先生もどうぞ（Ⅰ）ください。」

問四 ― ④）に入れることばを文中から三字でぬき出して答えなさい。

問五 ― ⑤）について、このようなことにならないためには、何を持つことが必要ですか。文中から八字でぬき出して答えなさい。

問六 ― ⑥）について、次のA、Bの問題に答えなさい。

A 「これらは、正しくない、美しくない日本語だ」とありますが、なぜですか。次の（Ⅱ）と（Ⅲ）に入るのにふさわしいことばを文中からそれぞれ三字でぬき出して答えなさい。

この言い方は日本語の決まりごとを守っていないため、相手に（Ⅱ）や（Ⅲ）を与えてしまうから。

B 「正しく美しい日本語」を身につけるために大切なことは何ですか。文中から三十一字でぬき出し、はじめの五字で答えなさい。

問七 次の中から本文の内容に**合わないもの**を一つ選び、記号で答えなさい。

ア、相手に誤解を与えてしまうような表現は、その時点ですでに、正しく美しい日本語とはいえない。

イ、正しく美しい日本語を使うためには、規範となる日本語の共通理解事項を知っておくべきだ。

ウ、上品な婦人が物腰のやわらかい口調で話した場合、その日本語は美しく正しいものと考えらるべきだ。

エ、規範から外れた日本語を使い相手に誤解を与えるということは、日本人にも起こり得るはずだ。

